土に描く

田島征三エッセイ集

田島征三

理論社

著者紹介

1940年大阪生まれ。幼少年期を父の郷里である高知県で過ごす。1962年多摩美術大学卒業。1969年第二回世界絵本原画展「金のリンゴ賞」受賞。1974年第五回講談社出版文化賞受賞。丸木位里・俊や山下菊二らと共に人人会創立に参加。1969年より西多摩郡日の出町で農耕生活を送っている。主な絵本「ちからたろう」（ポプラ社）「しばてん」「ふきまんぶく」「やぎのしずか」（偕成社）「猫は生きている」（理論社），エッセイ集「土の絵本」（すばる書房）画集「畑の神々」（集英社）などがある。

0095-90239-8924

© Seizo Tashima 1983 Printed in Japan

土に描く

一九八三年八月　第一刷

定価／一二〇〇円

著者／田島征三（たしませいぞう）

制作／小宮山量平

発行／山村光司

発行所／株式会社理論社

東京都新宿区若松町一五-六

電話（03）二〇三-五七九一

郵便番号　一六二

振替　東京九-[redacted]八

乱丁・落丁本は[redacted]たします。

印刷・誠和印刷[redacted]

土に描く

田島征三エッセイ集

田島征三

理論社

土に描く　もくじ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

1 畑のともだち 7
せみ いぬ バッタ ニンニク かまきり 蟲たち かめむし へび 蕗
2 畑で考えたこと 27
描くこと耕すこと うんこでつくる本物野菜 メキャベツ 山羊の「しずか」 畑はぼくのアトリエだ
だれの畑も地球の一部 ぼくがいちばん幸せな季節 わが家の土つくりの実際 田んぼのこと
チャボたち のらいぬ いのち ジレンマ 村のつきあい その1 その2 その3
3 村のともだち 123
日の出村交遊録 124
森下のタキちゃん オキのおじさん 「はたや」のおばあさん キャベツのおじさん
地蔵のじろうさん メェーの慎二さん
ぼくのもてなし 139
走る女 145
4 子育て記 147

日の出村子育て記　148
子山羊はどこから生まれる　こっちきてハタラケ　おたがい親はたいへん
子供はどうすればできない？　お父ちゃんはわたしの恋人　恋に革命にいのちを燃やせ
ちょっと、もちあげすぎたかな　泥棒ネコも食べちゃう？
ドライブだぞ　160
二人の息子と一人の娘　163
父親は言いたい　166

5

感性と文化　169
クモとスイッチョ　170
山羊の思い　172
草と感受性　175
長い付き合い　177

「間に合わせ」の文化　179
机上の行政　183
タツガサコの安岡夫妻　185
高知のことマンボウのこと　189
殺された若者たちとぼくの青春　193
佐伯のおばさんとの六年間　198
おばさんと土饅頭　絵人間のこと、ナベさんのこと、小野くんのこと
岸正幸さんのこと、「やまもも」のこと　移動劇団桜隊受難の碑　終りに
魂と話す　214
昭和二十年夏　218

絵　田島征三
写真　橋本紘二
装幀　平野甲賀

1 畑のともだち

せみ

少年時代の夏の思い出は、せみの声と宿題と姉の白い乳房。ミーンミーンと頭の中まで攻めいってくる、せみの鳴き声にボォとなって風景がかすんでしまいます。

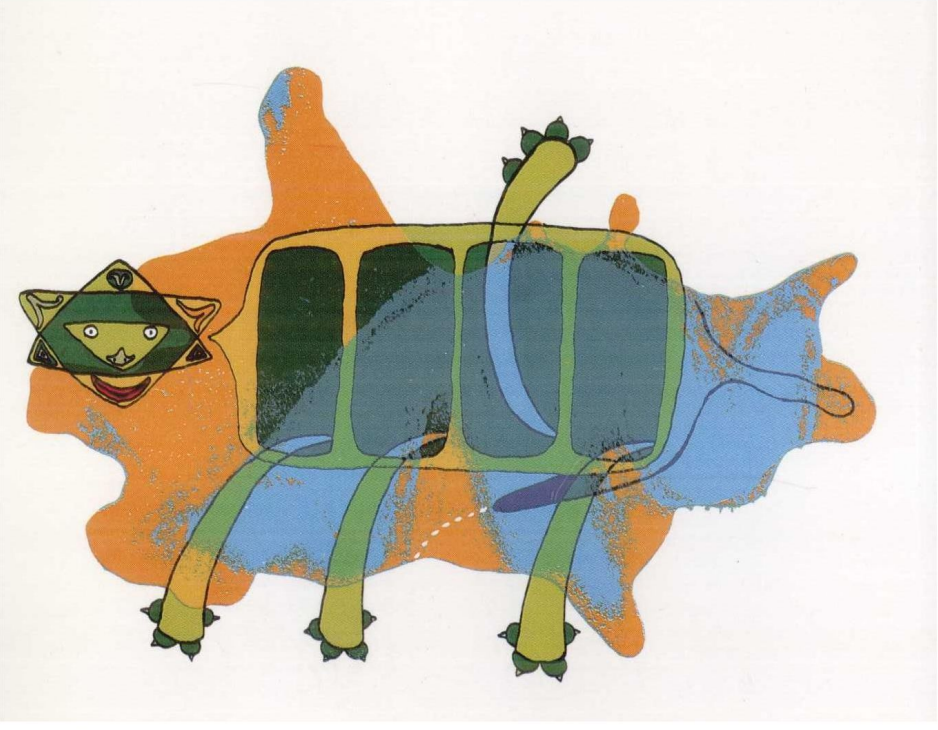
窓にもたれて立っていたぼくは、畳に腹ばいになって本を読んでいた姉のむなもとから、かわいい乳房がのぞいているのをみつけてしまいました。ぼくは息が止ってしまうほど興奮して、まばたきもしないで長いことみとれていました。

今でもせみの声を聞くと、頭がボォとなってぼくの思考は止ってしまいます。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

いぬ

いぬは山羊やにわとりのようにぼくに乳や卵をくれないけど、だからといって人間とペットの関係にはなりたくないんだ。犬好きの女学生がつれてきたり、子どもがひろってきたり、雑種のみじめっぽい犬ばかり飼ったが、みんなよく働いてくれた。山羊が毒草を食べて夜中に死にそうだったときは大声でおしえてくれたし、ひよこを盗みにくるきつねやイタチから守ってくれたりした。しかしいつもはそれほど役に立っているようすではなく、なんだかすまなさそうな顔をして家族の中にいる。



バッタ

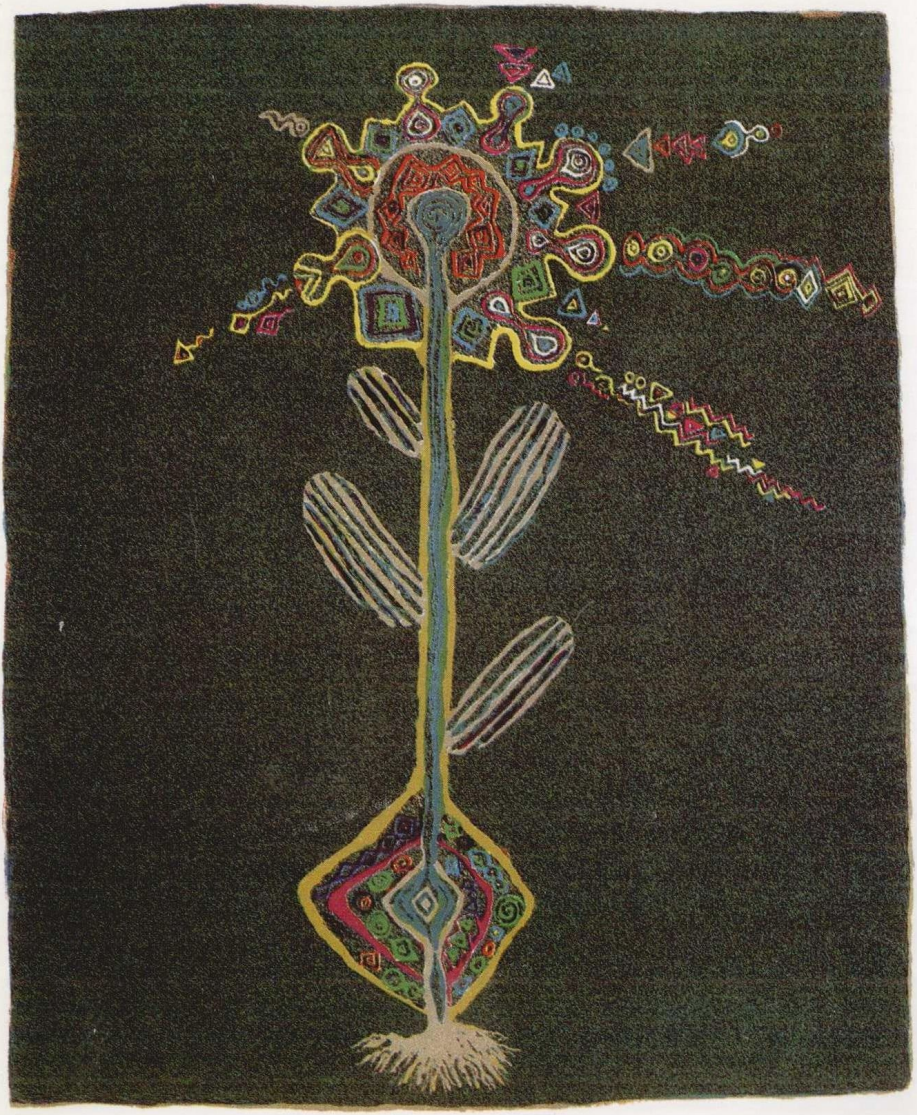
空を飛ぶことのできる昆虫の中では、バッタはへたくそな飛行士で、必ずしも自分の考えた方向に飛べているようではない。しかし、飛ぶ虫の中で、ぼくはバッタが一番好きだ。バッタは飛ぶとき羽根も使うが、ほとんど一番後ろの太い足をバネにしてピョンと飛躍する。しかし着陸する地面に何があるか全くおかまいなしで、ときたま水たまりなどにおっこちてあわてている。

石橋をたたいて渡る人は世間に多いが、ぼくなんか向う岸も知らないで飛んでしまって、いつもつらいめに会う方だから、自分の飛んでゆく先を確かめないバッタに親近感を持つのだろう。草刈りをしている時など、どっからか飛んできたバッタがぼくの目の前に着陸して、ぼくと目が合うとあわてふためいて、また別の方に飛んでいく。そういう時のバッタのしぐさを見るとぼくはますますバッタが好きになってしまう。

ニンニク

ニンニクは生命の神さまです。ぼくはニンニクによって生かされ、エネルギーをニンニクから吸いとって絵を描いてきました。ニンニクは大地からエネルギーを吸いとってぼくにくれるのです。

ニンニクの花は地中のニンニクのカブを小さくしたようなものです。その花柄は中国料理では大変重宝がられています。この空中に生まれる小型ニンニクを畑に播くと又ニンニクが出来ます。ぼくの郷里、高知ではこれを葉ニンニクといってねぎのようにひきぬいていろいろの料理につかいます。これがまた強力なエネルギー源になります。ぼくはいつかニンニク畑で発見したことがあります。それは、空中に出来るニンニクの実というものはあの世だということです。地中のニンニクが現世なら、空中のニンニクは来世だなというふうに思えたのです。現世は土の中で根をはっていて来世は空の風の中にあります。そして現世と来世をみどり色した細い茎がつなげているのです。



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com